



飛騨高山地域における 買い物支援の取組みと課題

名古屋経済大学
経済学部
地域政策ゼミ

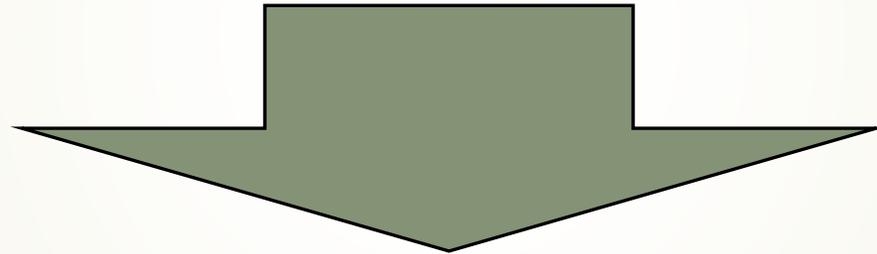


目次

1. 研究対象と調査方法
2. 研究目的と背景
3. 飛騨高山地域の概要
4. 飛騨高山地域の取組み
5. 他地域の取組み
6. まとめ

研究目的と背景

人口10万人未満市町村の面積の約75%が自然面積である日本では、**中山間の農村集落における食料品アクセス問題**が課題である。



高山市と飛騨市の中山間地域を分析対象にし、現在行われている買い物支援策とその課題についてまとめ、改善策について検討した。

研究対象と調査方法

➤ 研究対象

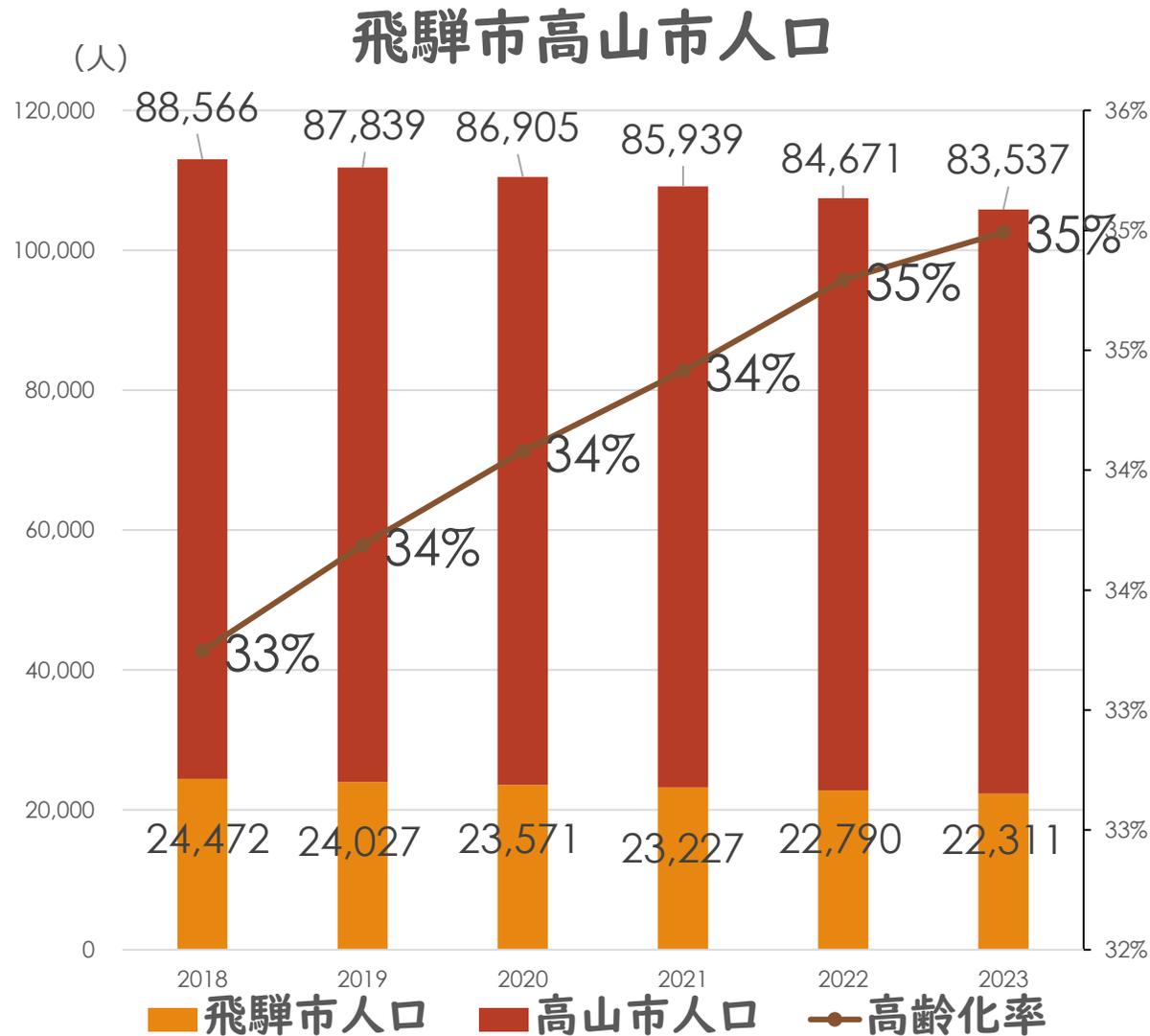
飛騨市・高山市

➤ 調査方法

2023年9月8日(金)

飛騨市役所関係者、東茂住郵便局局長、
駿河屋に対するヒアリング調査

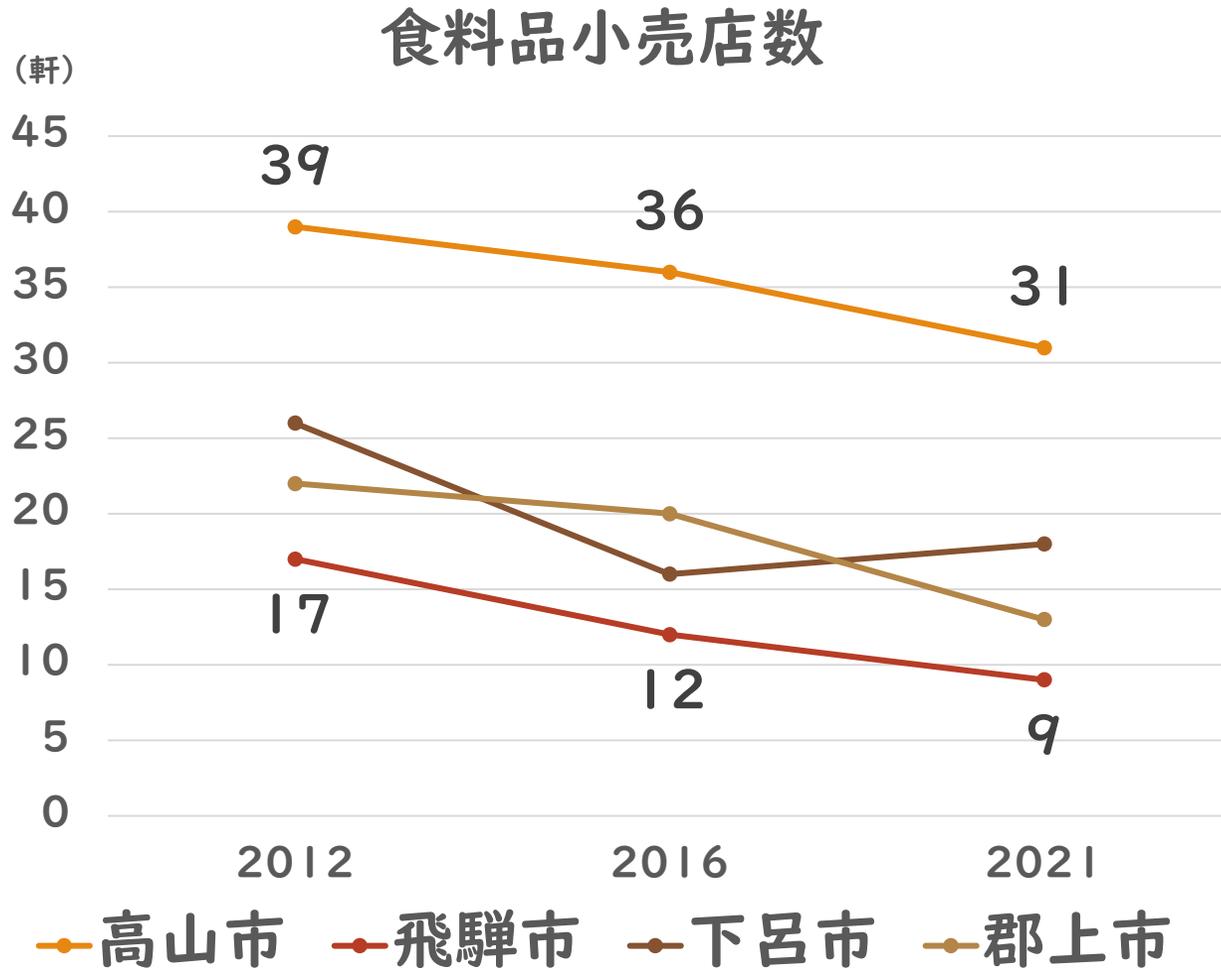
飛騨・高山地域における人口



- 2018年から2023年の5年間で総人口が113,038人から105,848人まで減少している。
- 高齢化率は33%から35%へ少しずつ上昇している。

飛騨高山地域の小売店数

各種食料品小売店（スーパーなど）の事業所数



- 事業所数は、各地域で9年間で10店舗ほど減少。
- 飛騨市は、2021年に10事業者を切り、買い物弱者が存在する可能性。

JA飛騨 営業所・Aコープ・生活店舗統廃合状況

年度	飛騨市内	高山市内
2005年度	<p>廃止：数河・中野・平瀬支店 袈裟丸・山之口営業所</p> <p>生活資材取扱廃止：馬瀬</p>	<p>廃止：葦柱支店 渚・秋神営業所</p>
2006年度	<p>廃止：打保営業所</p>	
2017年度	<p>統廃合：袖川・森茂・西部・上原・ 中野営業所</p> <p>食料品等取扱統廃合：河合・宮川・杉崎 ・信包・竹原支店</p>	<p>食料品等取扱統廃合：Yショップ宮・ Yショップ朝日</p>
2018年度	<p>食料品等取扱統廃合：Aコープ古川</p>	<p>食料品等取扱統廃合：Aコープ国府</p>
2022年度		<p>食料品等取扱統廃合：清見・高根・荘川</p>

2017年、2018年に統廃合したAコープ・生活店舗 森茂営業所(山之村) (食料品等取扱店)



飛騨高山地域の取り組み

飛騨市役所

内容

- 配送費の補助（移動スーパー、郵便局）
- 高齢者サロンの場での商品販売

きっかけ

- 飛騨市内のAコープの撤退

現状課題

- お店を開くノウハウがない
（自治体が主体となってお店を開けない）



東茂住郵便局

内容

- 2021年4月から局内での販売
(スギ薬局、飛騨市役所と連携)

きっかけ

- 周辺地域の買い物施設の撤退

効果・影響

- コンビニのように利用
(近隣の研究施設の学生)
- コミュニティの場に
(近隣の地域住民)

現状課題

- 儲けが出ない
- システムが未熟
- 商品にバラエティがない
- 商品の変更、値上げの対応が難しい



駿河屋スーパーカー

内容

- スーパーカー（移動販売車）
- おうち便（宅配）

きっかけ

- 平瀬地区からのAコープ撤退

効果・影響

- スーパーカーが来るだけで安心感
- 普段外に出ない人でも買い物に
- スーパーカーに集まることでコミュニティの形成

現状課題

- 収益が赤字
- 積める商品に限りがある
- 売れ残り商品の処分が店舗の負担



飛騨高山地域の支援策の特徴

- Aコープなどの買い物施設の撤退、閉店が原因
- 配送費などの補助はあるが、運営費が大きく赤字または利益が望めない
- コミュニティの場につながっている

他地域の買い物支援について

移動販売<とくし丸>

とくし丸

- スーパーマーケットがとくし丸に契約金を払う

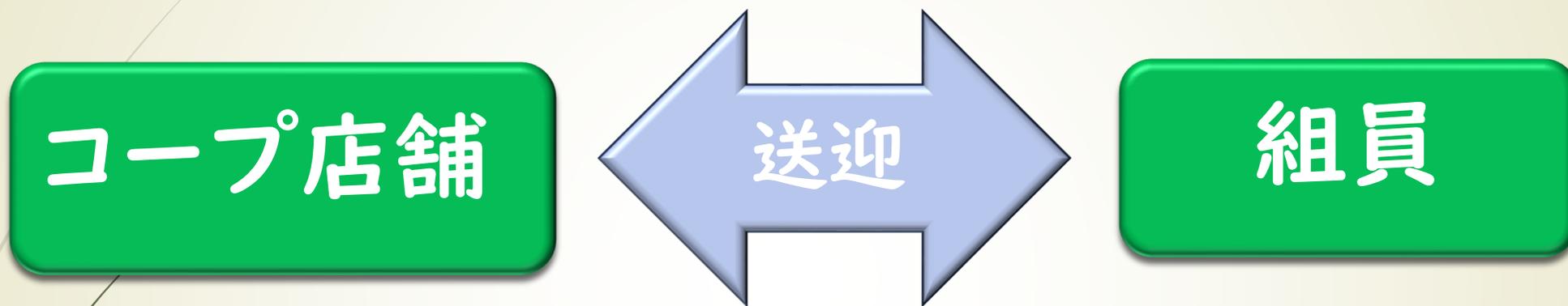
- 個人事業主が移動販売をとくし丸から購入

スーパー
マーケット

個人事業主

- スーパーマーケットが個人事業主に商品の供給
- 仕入や売れ残りの処分はスーパーマーケット

移動手段<買い物もん行こカー>



- 1日1台を6回動かし1日1台で最大42名を送迎している。
- 身なりを整える等心身のケアになっている
- 1世帯から1人のみ利用可能

買い物代行<佐伯市番匠商工会>

会員が宅配員に電話し注文する



受け付けたものを集計



各商店を回り
ピッキングし配達

- 配達中にお客さんの生活サポートを行う
- 金額は販売の13%を商品代金に上乗せして支払う
- 会員以外からの依頼は1回100円の手数料を取って受ける

各支援策のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
移動販売	<ul style="list-style-type: none">商品を手にとって購入できるスーパーまでの移動をせずに買えるコミュニティの場の形成	<p>【環境による影響】</p> <ul style="list-style-type: none">少しの遅れが全体に響く天候で売り上げが上下する生鮮食品廃棄のリスク <p>【物的要因】</p> <ul style="list-style-type: none">車種によって商品が少ない
送迎サービス	<ul style="list-style-type: none">手にとって購入できる地域住民と話せる機会ができる	<ul style="list-style-type: none">時間に制限がある購入した量、モノによって載積時に手間がかかる
買い物代行	<ul style="list-style-type: none">家から出る必要がない自分の時間を確保できる重たい商品の購入が容易	<ul style="list-style-type: none">手にとって選べない急遽ほしいものがあるときに困る一日当たりの配達に限りがある

先行事例まとめ

移動販売

- 移動販売に使う車の手配など初期費用が掛かる
- 売れ残った生鮮食品の処理が必要



大きな費用が掛かり
店側の負担が大きい

送迎サービス

- 近くに住む地域住民と一緒にいける

買い物代行

- 時間を有効活用できる
- ちょっとした生活のサポートも
- 手に取って選べない

商品を手に取って選べる
コミュニティの場の形成

市外若者が考えるさらなる取組み

➤ スーパーまでの送迎サービス

- 飛騨高山市内にあるデイサービスで運営している送迎バスを利用して、スーパーまでの移動手段として代用する送迎サービス
- 市役所が運営する送迎バス

ご清聴ありがとうございました

参考文献

- 経済産業省（2023.3） 買物弱者支援事業者 事例集
- 高山市人口統計資料
<https://www.city.takayama.lg.jp/shisei/1000062/1002187/1002188.html>（2023.12.3 最終閲覧）
- 飛騨市公式ウェブサイト 各町別人口・高齢化率
<https://www.city.hida.gifu.jp/soshiki/13/53240.html>
（2023.12.3 最終閲覧）
- 関満博（2015）『中山間地域の「買い物弱者」を支える』